

松巖寺川原の仮校舎

後藤 ミツ (柴北)

私は大正十年四月に尋常科一年に入学し、昭和三年三月高等科二年を卒業しました。今思えば楽しい思い出いっぱい学校生活でした。

一年生から卒業するまで、男子も女子もみんな着物姿で、洋服の人は一人もいませんでした。女の先生はいつも袴をはいていましたが、女生徒も高等科になると袴をつけました。

一年生の時の担任は、山内出身の宮成スメ先生、五年生の時が、小切畑の宮成一二三先生でした。宮成先生は厳しい先生でしたが、笑顔のやさしい方でありました。高等一年の時の担任は、野津出身の城野力先生でした。城野先生は師範学校を卒業したばかりで、いつも詰襟の服を着ておられ、元気潑刺とした方でした。城野先生は後に後藤瑞哉先生とお名前が変わられました。高等二年の時の先生は、土師出身の安東先生でしたが、ご病気のため途中でやめられました。そうした先生方も、みんな今は亡き方々ばかりでございます。

入学した当時の校舎は二階建てでしたが古い

校舎でした。式の時は二つの教室の中仕切りの戸をはずして式場を作りました。式場に入ると皆んなおとなしくなるのでした。私語をすると先生から叱られたものです。式の時は校長先生がおもくしく教育勅語を奉読する。生徒は頭をたれて静かに聞くのでした。

忘れられないのが一月一日の式のあとの密柑もらいでした。みんな三つずつもらって喜々として帰宅するのです。

校庭は子供心か、広いなあという印象が残っています。まだ、桜の木はなかったように思います。あの校庭での遊戯、運動会、体操……：昨日のここのようになつかしく思い出されています。

裏庭には小さな池があり、長谷村の地形を形どったものでした。

四月には遠足。三年生までは八石、四年生以上が水の元でした。頂上からは海が見え、船も見えました。佐賀の関の煙突も見えました。楽しいお弁当、そして飛び回って遊んで喉が

わくと、あのおいしい水をよばれたものでした。遠足の帰りに希望者は天面山まで行ったこともあります。天面山の頂上には黒こげの焼き米が残っていたのを思い出します。

高等一年の時、校舎の建替えが行なわれ、そのために松巖寺川原の仮校舎で勉強したのでした。水の音はきこえるし、隣の教室の話し声は聞こえるし、男子がいたずらするのがまる見えでした。机の座りが悪く困ったものでした。仮校舎には器械体操用の鉄棒が僅かに一つあったのをおぼえています。仮校舎のすぐそばに学用品を売る店が一軒ありました。川が近いので、夏はよく泳ぎに行ったものです。

高等二年の時、新校舎が完成しましたが、二階建の校舎はまことに見事なものでした。教室は新しく立派になりましたが、黒板や教卓、生徒の机は古いもので、何となくチグハグの感じでした。それでも、新校舎に入られた喜びは大きく、今も忘れることができません。その校舎も今はもう残っていません。